

★ 檀家さんに聞く



日高村のさんさん市に『森下恒雄』さんの名前が入ったトマトが売られています。実は、この方はもう亡くられています。敢えてその名前が付けられているその想いを、皆さんにご紹介します。

森・・・森下さん
坊・・・住職

日高村九頭在住の森下千鶴子さん。本郷のハウスでトマトを栽培されています。



- 森 仕事しながらでごめんねえ。
- 坊 いえいえ、もうほんと立ち話で結構ですき。今日は宜しくお願いします。さっそくですけど、時期的には今がすごい忙しいがですかね？
- 森 うん、あのね～植えたらずーと忙しい。(笑)
- 坊 年間何回位植え替えるんですか？
- 森 1回。8月の15日頃に植えたら、来年の7月まで、ずーと採ります。ここで植えたががずっと向こうまで一本仕立てで、5M～7M、蛇の道みたいに。
- 坊 そんなに伸びるがですか！(驚)。ひとつの苗から何個ぐらい取れます？
- 森 年にもよるけど、これが1段よね・・・、これに2個3個ついて・・・、3個ついたら理想よねえ。3個で10段取れたらいいねー。ひと箱30個やきね。その年によっても出来が違うし、季節によっても単価が違うけど。



- 坊 品種は決まっていますか？
- 森 今はね、桃太郎。日高村はほとんど桃太郎系で、なかでも改良系のファイトっていうのを接ぎ木で植えゆうね。桃太郎が美味しいけど病気に弱いよ。それでファイトっていう改良系が作られちゅう。それでも去年の大雨みたいに浸かってしもうたら病気がでるので接ぎ木をせんと作れんなちゅう。
- 坊 たとえ災害が無いとしても、毎年予定通り行くもんじゃないがですねえ。
- 森 そう、季節によっても違うし、毎年違う。主人がまだ勤めに行きゆう時分に、お婆ちゃんが病気で倒れてから手伝い始めたんやけど、もう30年になるねえ。鍬も鎌も持ったことが無

かったき、鎌は石にバンバン当てて欠けてしまうし、鍬は変に力が入るき柄がすっぽり抜けてしもうたりの、そればあのもんから始めたがやけどねえ。
日高村はトマトの一大産地で、歴史も50年ぐらいになるきねえ。主に都会へ出荷しよった頃はバブルの影響もあってひと箱8000円～1万円もする高価な値で売れる時代もあったねえ。それがもういかんになって、そこからは京都の西京極の市場とか、大手のスーパーなんかに出すようになって、県内でもサニーマートとかにはうちが最初に出すようになったねえ。お爺ちゃんと私の写真を載せてねえ。

- 坊 今でこそ誰々さんが作った果物とかのパッケージがありますけど。
- 森 そう、その当時はまだ地産地消とかも言われてない時代やったきねえ。
- 坊 今でもね、ほら、森下さんのトマト、森下恒雄さんってお爺さんの名前で出しちゅうでしょ。
- 森 お爺ちゃんが頑張っ作ってくれよったきね、お爺ちゃんの名前を無くしとうのうてねえ。まあ、うちのお爺さんは真面目でねえ、しんどいとかうるさいとか一言も言わんとねえ、いつも手伝うとくれたきねえ。ほんとに有難いことで八十過ぎても亡くなる直前まで働いてくれた・・・。
- 坊 トマトを作っていくことがお爺さんへの供養にもなりゆがですねえ。
- 森 そう、お爺さんとお婆さん2人で一生懸命作りよったきねえ。どこ行くのも2人一緒にねえ。
- 坊 それにしても1本の苗から1年間ずっとトマトがなり続けるって凄いですね。
- 森 うん、そうなるように管理するのが大変ながよ。(笑)例えば温度が高かったら、傷とかスジヒキができて見た目も悪くなるきねえ。
- 坊 そうながですかあー。僕はスジ引いちゅうほうがより美味しく見えよったです。(笑)
- 森 農協の出荷場へ出すには見た目はもちろん、中の糖度もセンサーでちゃんとわかるき、ほんとに厳選されたトマトしかシュガーの名前がつかんがよ。高知では徳谷のシュガーも有名やけど、日高の農協は特に厳しいがよ。
- 坊 凄いですね、勝手にシュガートマトとは言えんがですね。
- 森 昔は、関西関東へ何回も行って、試食直売会に出してもろうて、何年もかけてやっとシュガートマトが浸透しだいて、それで今の単価をつけて頂いたがよ。県下で一番最初にシュガートマトをやりだしたのも日高やしね。



- 坊 年中大変な作業やと思いますが、どんな時が一番嬉しいですか？
- 森 うーん、「今年は糖度がなかなか上がらん、どうしよう・・・」と思いつた時に、「今年も美味しいトマト送ってくれてありがとう！」って言うてもろうた時が一番嬉しかったねえ。「ああ、一生懸命つくりよって良かったあ。」て、ほんとに思えるねえ。・・・こんな話でよかったらうか？(笑)
- 坊 良いお話が聞けました。どうもお忙しい中、有難うございました。

